

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第7講 議論を組み立てる

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 厳密な思考と建設的な批判

1 課題

作成してきた問いと答えの表について、意見を交換する。

- 批判的に
- 細かいところの論理的整合性
- 全体的な一貫性
- 自分のもっている知識との矛盾

2 注意すべきポイント

概念と用語

- 定義と意味
- 実際の用法
- 当てはまるものと当てはまらないもの
- 他の概念との関連

論理

- 前提
- 必要条件と十分条件
- 逆や裏を考えてみる

データ

- 対象
- 測定と分析の方法
- 測定の妥当性・信頼性再現性
- 結果をどのように解釈するか
- どのように一般化できるか

- 直観と内省

推論

- 確率と統計的推測
- 場合わけは網羅的か
- 複数の推論の組み合わせ

価値判断

- さまざまな価値基準
- 一貫性

3 発表会

1/8,15 の授業では、各自の発表をおこなう

- 発表内容についての資料を人数分用意する (初回資料にしたがって簡潔にまとめる)
- グループ内で「紹介者」を決めておく
- 紹介者から研究内容を紹介 (2分)、そのあと自由に質疑 (8分)
- 紹介者との間で事前に打ち合わせしておくこと。グループで集まるのが望ましいが、できない場合はメール連絡等でもよい

4 口頭試問

授業最終週に、グループで口頭試問をおこなう。1人15分程度。時間と場所はグループごとに決める。

発表会の時の資料から改訂した部分がある場合は改訂後の資料を持ってくること。試問ではいろいろなことを聞かれる可能性があるので、参照する可能性のある資料を準備しておくこと。

口頭試問の際に提出された資料をレポート確定版として採点。

文献

道田泰司・宮元博章・秋月りす (1999) 『クリティカル進化論』 北大路書房。